

第6回社叢インストラクター資格認定試験問題

筆記試験Ⅰ【10:00～11:00】：下記のうち1題を選択し、指定の字数で記述（課題は事前に提示）配点＝100

論文1. あなたが住んでいるまちの社叢、あるいは近隣の町の社叢を1か所あげて、その現状、問題点を簡潔に記し、今後、その問題点の解決に向けて、社叢の専門家として取り組むべき対応策をあわせて1,500字程度で記述しなさい。

＜社叢の名称＞ ＜所在地＞ ＜現状と問題点＞ ＜取り組むべき対応策＞

論文2. 南北に長い日本には様々な様相の社叢があるが、その森林のタイプを決める要因は何かについて1,500字程度で記述しなさい。

筆記試験Ⅱ【11:10～12:10】配点＝100

問題1 照葉樹林を構成する種類として判断できるものには◎を、生育場所によってはいずれ交代する種類、遷移の途中相と判断できるものには○を、本来の生育環境ではないと思う種類には×を、移入（外来）種には△を（ ）内に記入しなさい。配点＝20

ミズナラ	()	クヌギ	()	シラカシ	()
カゴノキ	()	タブノキ	()	カナメモチ	()
ナンキンハゼ	()	ケヤキ	()	マンリョウ	()
ブナノキ	()	アカマツ	()	ベニシダ	()
ジャノヒゲ	()	アベマキ	()	ヤブツバキ	()
テイカカズラ	()	スダシイ	()	イチョウ	()
ウバメガシ	()	タラヨウ	()		

問題2 以下の（ ）に適当な語を下の欄に記入しなさい。配点＝20

神社といえば、社の建物を考えやすいが、本殿ができるのは、今のところ確かな例は、(①)世紀にさかのぼる。

奈良県の(②)神社にはいわゆる本殿が今もない。では何が神の鎮まる本体かという、三輪山が神の鎮まる場所で、これを神体山と言う。古典の用語では、(③)と言う。これを登って行くと、聖なる岩石の群(④)があり、聖なる石で、聖なる場所(⑤)を囲い、その中に神の降臨をあおぐ。また、神の宿る聖なる樹木を(⑥)といい、聖なる樹木にも神は宿ると信じてきた。

『万葉集』では「やしる」という言葉に、(⑦)・(⑧)という漢字をあてているが、たとえば、『万葉集』の歌をみると、

“木綿かけて 齋ふこの社越えるべく思ほゆるかも恋の繁きに”

というように、「社」という字を、(⑨)というやまとことばにあてている。聖なる鎮守の森が、すなわち「神社」なのだ。

また、『出雲国風土記』の秋鹿郡女心高野の条には「上の頭(ほとり)に(⑩)あり、是はすなわち神社なり」と明記している。

問題3 森林の構造について、以下の用語の意味を記し、それについて知るところを簡単に記述しなさい。配点＝30

- 1) 森林樹木の断面積合計
- 2) 光合成を行う樹木の葉の表面積指数（葉面積指数）
- 3) 樹木のもつ葉量（着葉量）
- 4) 落葉の平均分解率
- 5) 林内の相対照度

問題4 東日本大震災で果たした神社・社叢の役割に関して、社叢学会は神社に対するアンケート・ヒアリング調査を実施し、多様な役割を有していることがわかりました。どのような役割を果たしたか、考えられることを記述しなさい。配点＝15

問題5 相応な大きさの照葉樹林からなる社叢が発達している田園地帯に鎮座する神社に参詣するために、また回り道をさけて反対側に抜けるための短絡する踏みしめた通路ができてしまった。そこで、この照葉樹林の森にできた穴を防ぎ、通路に植物を使って回復させる方法を、2以降、3段階程度で考えなさい。配点＝15

1. 先ず、ここは通路ではないので、植物による修復をするという意味の表示を建て、通行止めにする

* 口頭試問では受験の動機やこれまでの経験を聞いたほか、約10種の樹木の同定を求められた。